

[09_02]情報処理教育広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6768580>

出版情報：情報処理教育広報. 9 (2), 1986-12. Educational Center For Information Processing,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：



編 集 後 記

◇ 計算機システムの機種更新を行った。昭和58年4月末に FACOM M-360 を導入してからおよそ3年半、早くも時代遅れになりつつあった。今回の機種更新はホスト計算機システムの処理能力向上もちろんであるが、すべてのTSS端末で日本語と図形の処理を行えるようにすることが最大の目標であった。その結果、本広報中にプログラム相談員も書いているように、利用者から見た使い勝手の変化には劇的なものがある。

日本人が使用する計算機のメッセージがなぜ日本語でないのかという素朴な疑問に答えるべく、現在各種のメッセージを日本語で表示するように努力している。FORTRAN の実行時のエラーメッセージはすでに日本語で表示されている。FORTRAN の翻訳時のメッセージも来年の4月ごろには日本語で表示できる予定である。これで FORTRAN の利用者がマニュアルを探して走り回る必要がかなり減少するのではないかと期待している。さらに FORTRAN に限らずエラーメッセージの説明を調べたいときに、従来はマニュアルを調べていたが、現在はエラーコードをキーにして端末から直接検索することが出来るようになっていく。ただしこれはまだテスト的なもので、表示される内容が初心者向きでないものがあるなど、まだまだ問題もあるが、近い将来改善される予定である。

新システムになって実に各種の新しいソフトウェアを提供できるようになった。ODM、ANALYST、GRAPHMAN、EGRET/DRAW、C、UTILISP、PROLOG、ESHELL などなど。センター側の準備ができしだい一般公開して行く予定であるが、勉強するのが大変である。質問されても答えられないものがだんだん増えて行きそうな気がする。現在プログラム相談員や好奇心が強そうな学生を中心に試用してもらっているものがいろいろあるが、大変興味を引いているようである。

今年の12月から国家公務員は隔週週休2日制が試行されることになった。情報処理教育センターでは常勤職員が4名しかいないために、土曜日は2名しか出勤しないことになる。どちらか一人が出張、病気などで出勤しないと、残る一人で計算機システムの運転や利用者の応対から事務処理等まで全部しなくてはならず、大変困難な状況に陥る。来年1月からこれまで月曜日に行っていた保守作業を土曜日に行い、従来サービスを行っていなかった月曜日の午前中にサービスを行うように変更せざるをえない。関係者の寛大なるご理解をお願いしたい。(N. F.)

◇ 新しい計算機システムを使い始めて、はや4カ月が過ぎてしまいました。この間、いろいろな標語?が会話中に飛び出しましたのでここで紹介いたします。

1. TSS、みんなで使えば遅くなる。

TSSを使った授業では全員が同時にLOGONしたりRUNさせたりするので、計算機側からみると過負荷になり、利用者からみると「遅いな～」となります。機種更新以前にはかな

り深刻でしたが現在は非常に改善されたと思います。

2. 贅沢は素敵だ。

端末が新しくなりいろいろなソフトが使えるようになったので贅沢になりました。今まで我慢してきたことができるようになったおかげで、心地よく使えるようになりました。

3. 贅沢はすべきだ。

利用者の方々も目の前に贅沢できる機械（機会）があるのですからどんどん利用すべきです。

4. OPRがあれば、もうNLPはいらないんじゃない。

特に、私が驚いたのはOPRの機能と便利さです。NLPと違ってOPRはカット紙を使いますのでワープロにはとても便利です。この4カ月の間、NLPにできてOPRにできなかったことはGRAPHMANのBCOPYの利用やANALYSTの図形などのセルに分解して図形をNLPへ出力する機能、高速に多量に印刷あるいは縮小印刷する機能、OPRはALLOCCATEコマンドで割り当てられないこと、などでした。

5. 更新が過激だ。

情報処理教育センターの端末は富士通の新製品で、この機能を有効に利用するためにはOSを含む各種ソフトウェアを最新のレベルに更新する必要がありました。そこで、とにかく何でも一番新しいものにするという方針で現在に至っています。

しばらく計算機から離れると、いろいろな機能、ソフトウェアのレベルアップにとり残されて今浦島になるかもしれません。利用者の皆さんどんどん利用して、宝の持ち腐れにならないようにしてください。

(M. E.)

◇ 卒研の真っ最中に予感のように頭をよぎったのは、もし情報化社会が開花してネットワークが完備したとしても、それは誰でもが利用できる便利なものとはならず、経済的な事情などでコンピュータを使えない人を置き去りにしてゆく、情報を受けとれるか受けとれないかの隔差—情報隔差をもたらす不平等な社会を作るだろうということでした。

それは1つのショックでした。コンピュータのネットワーク化は、ともすれば中央集権的になりがちな社会構造をも変化させるかもしれないと私や友だちは夢想したものです。しかし、その前にネットワークがもたらす豊かな未来図とは裏腹に、情報を受けることのできない層というものが付随して生まれて、そういった、ネットワークとは無縁な人たちをとり残してゆくような社会ができるのではないかと思ったのです。

世の中は情報化の波にのまれて、先のことを考えずにのり遅れまいとする強い力に押されて動きます。しかし例えば、情報隔差をできるだけ小さく抑えるような動きも必要です。例えば情報をみんなが使える形にする、公共図書館のネットワーク化や大学図書館のネットワーク化のような、情報化

社会の恩恵をみんなで受けることを考える時代です。

大学でも、情報化社会に対応していく能力だけを養うことが未来につながるかどうか、考えてほしい問題だと思います。

プログラム言語の修得だけでなく情報化社会に多方面からアプローチできるような人、いろいろな考え方でできる人が大学で育て欲しいと考えます。

そのためには情報化社会に関する総論のような視野の広い授業や、情報化社会の未来を考える討論会や、情報化社会の社会教育を考えたり法制度を考えたりする情報社会概論のような授業、データベースやネットワークの利用の仕方を教える授業などが必要です。

若い人達に情報化社会を見通す目と生き抜く能力を教えることも、情報処理教育の1つだと思うのですが、どうでしょうか。

二年たった今も卒研の夢から覚めきっていません。ネットワークが幸せをもたらすかどうか誰にもわかりません。ただ私たちは新しい時代に直面しようとしている、だから新しい時代の夢を新たに描く必要があるのかもしれません。

(K. I.)

広報の配布を希望される方は、

・氏名 ・職名 ・所属 ・送先 ・電話番号

を記して

〒812 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学情報処理教育センター

電話(092)641-1101 内線2656

まで申し込みください。残り部数によりお送りできない場合があることをお含みください。